

音楽科学習指導案

日 時 平成25年 5 月 24 日 (金) 第 1 校 時

対 象 3 年 4 組 (男子 20 名 女子 20 名 計 40 名)

指導者 教 諭 徳 永 賢 子

1 題材 「心通う合唱 ～ア・カペラの響き～」

2 指導目標

- (1) ア・カペラの特徴に関心をもたせ、表現や鑑賞の学習に意欲的に取り組もうとする態度を育てる。
- (2) 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解させ、曲にふさわしい表現を工夫させる。
- (3) 全体の響きを意識しながら、曲にふさわしい発声や正しい音程・リズムで歌唱表現するための技能を身に付けさせる。
- (4) 曲種に応じた発声や声の重なり方の特徴を理解させ、響きの美しさやよさを聴き取らせる。

3 題材の評価規準

- (1) ア・カペラの響きの美しさや表現力の豊かさに関心をもち、表現や鑑賞の学習に意欲的に取り組もうとしている。
- (2) 声部の役割を理解し、全体の響きのバランスを感じ取りながら、曲にふさわしい表現を工夫している。
- (3) 発声や正しい音程・リズムに気を付け、より美しい響きで表現するための基礎的な技能を身に付けている。
- (4) 曲種に応じた発声や声の重なり方の違いを理解し、響きの美しさやよさを聴き取っている。

4 教材

「ふるさと」 高野辰之：作詞 岡野貞一：作曲 黒部美樹：編曲

「上を向いて歩こう」 永 六輔：作詞 中村八大：作曲 荻久保和明：編曲

世界のア・カペラ音楽から

「うるわしき救い主のみ母」 グレゴリオ聖歌

モテトゥス「喜びたたえよ」 ジョヴァネッリ：作曲

「深い河」 黒人霊歌

「ミッシェル」 レノン＝マッカートニー

5 題材について

(1) 題材設定の理由

本題材は、学習指導要領の第2学年及び第3学年の目標と内容の2内容(1) A表現ウ「声部の役割と全体の響きのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」、(2) B鑑賞ア

「音楽を形づくっている要素や構造と曲想のかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」を柱にし、ア・カペラの合唱表現や鑑賞の活動を通して、合唱の原点であるア・カペラの魅力を感じ取らせ、よりよい音楽を創り上げようとする態度を身に付けさせると共に、表現技能を高め、感性を豊かにすることを目指して設定した。

また、今回の学習指導要領改訂の趣旨の中では、合唱や合奏など全員で一つの音楽を創っていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりする指導を重視することが示されている。音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す曲想や魅力を生かして表現を工夫すること、音楽への思いをもち、音楽の魅力を伝えるにはどう表現すればよいか試行錯誤し合う活動を通して、本題材を進めていきたい。

(2) 教材について

「ふるさと」は、文部省唱歌の中でも、日本の多くの人々に愛され、親しまれてきた曲である。今回、初めてア・カペラで混声四部合唱に取り組むが、この曲は、調性や音域の面からも、中学生が歌いやすく、豊かな響きを感じながら、伸び伸びと歌唱表現できる曲に編曲されている。また、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら歌唱する能力を高めることができる。さらに、移動ド唱法を用いることで、相対的な音程感覚や歌唱における読譜力を育てることもできる教材である。

「上を向いて歩こう」は、戦後の高度経済成長期に国民的人気歌手であった坂本九が歌った日本を代表する歌謡曲であり、世界中の人々に今も親しまれている曲である。今回使用する楽譜は、「ふるさと」と同じ調性（ヘ長調）で編曲されており、移動ド唱法を定着させ、さらに、音程感覚や読譜力を伸ばすことができる。曲の構成は、ユニゾンと合唱の部分に区別されており、響きの違いを感じると共に、ユニゾンの一体感やハーモニーの豊かさを味わうことができる。合唱の部分は、主旋律とハーモニーのパート（バックコーラス）が2つの計3パートに分かれており、生徒たちが、女声と男声でパートを自由に組み替えて、声の重なり方の多様性とおもしろさを体感したり、強弱や速さの変化を工夫したりすることで、多彩な表現ができる教材である。

世界のア・カペラ音楽は次の4曲を選定した。

単旋律ののびやかな旋律の美しさ、ユニゾンの一体感を味わう「グレゴリオ聖歌」、合唱隊が2つに分かれて呼び掛け合ったり、重なったりするアンサンブルのおもしろさを味わう「喜びたえよ」、大編成の混声四部合唱の幅広い響きを味わう黒人霊歌の「深い河」、ポップスのア・カペラアレンジのよさを味わう「ミッシェル」。これらの4曲は、それぞれの曲を比較し、様々な音楽の特徴から、発声による音色の違いや、音楽表現の多様性に気づき、ア・カペラの表現の豊かさを聴き取ることができる教材である。

(3) 生徒の実態

本学級の生徒は、明るく素直であり、音楽の授業にも積極的に取り組んでいる。音楽活動の中でも、特に、歌唱に対する興味・関心が高く、朝の会・帰りの会のクラス合唱でも精一杯歌おうとする姿が見られる。今回の学習に取り組むに当たって、生徒たちの音楽に対する実態の一面を知るために、次のようなアンケートを実施した。

(4月18日、男子20名、女子19名 計39名実施)

- 1 声のみで表現されるア・カペラの音楽を聴くことは楽しみですか。
楽しみ (10名) どちらかという楽しみ (19名)
どちらかという楽しみではない (9名) 楽しみではない (1名)
- 2 友達とア・カペラで表現することは楽しみですか。
楽しみ (13名) どちらかという楽しみ (17名)
どちらかという楽しみではない (9名) 楽しみではない (0名)
- 3 合唱するときに自分のパートの旋律を正しい音程やリズムで歌うことができますか。
できる (8名) だいたいできる (20名) あまりできない (10名) できない (11名)
- 4 自分のパート以外の旋律を聴きながら歌うことができますか。
できる (9名) だいたいできる (10名) あまりできない (16名) できない (4名)

1と2の問いから、ア・カペラの音楽に25%の生徒が消極的であることが分かった。理由として、「おもしろくなさそう」、「難しそう」、「自分たちの声だけでは不安である」、「声だけでは盛り上がらない」などが挙げられていた。ア・カペラの経験が十分でないことから、声のみで表現する楽しさや、ア・カペラの魅力を感じ取るまでに至っていない。しかし、75%の生徒が、「楽しみ・どちらかという楽しみ」と答えており、「楽しそう」、「どんなハーモニーが創れるか楽しみ」、「合唱で和音を創っていくのが好き」、とア・カペラの音楽に興味をもち、挑戦してみたいという意欲をもっている。

また、本学年の生徒は、2年時の文化祭での学年合唱や卒業式の合唱など、みんなで歌い合わせる経験を積んできているが、音程やリズムに自信をもてない生徒が25%、自分のパート以外の旋律を聴きながら歌うことが苦手な生徒が50%いることから、基礎的な表現の技能を身に付けさせる必要がある。

以上のことから、問題解決のために、声のみの表現を楽しみながら、合唱の原点であるア・カペラの魅力に迫っていくことを大切にした授業を展開していきたい。さらに、学習の過程において、ペアやグループで歌い合わせる活動や聴き合う活動を取り入れることによって、表現の技能を高め、自分たちの表現の美しさを実感できる場を設定したい。

(4) 指導に当たって

生徒の実態を踏まえ、本題材を扱うに当たり、次のようなことに留意して学習を進めていきたい。

ア ア・カペラの美しい音色や多様な表現による声の魅力を感じ取る鑑賞活動と、ア・カペラのよさを実感する表現活動を関連させた授業を通して、意欲的に音楽を表現し、鑑賞しようとする態度を育てたい。

イ ペアやグループで声を合わせたり、聴き合ったりする活動や、曲にふさわしい表現を工夫する活動を通して、ア・カペラの魅力を実感させ、友達と共に音楽を創り上げる喜びを感じさせたい。

ウ 豊かな発声や正しい音程・リズムによって、美しい響きが生まれることを体感させる活動を通して、基礎的な表現の技能を高めたい。

エ 相互発表・相互評価の場を設定し、ア・カペラの響きの美しさや表現の工夫を聴き取らせることによって、鑑賞する力を高めさせたい。

6 指導計画 (全6時間)

時	主な学習活動	教材	単位時間における評価規準			
			音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
1	1 曲の構成を楽譜から読み取る。 2 パートに分かれて階名唱をする。 3 混声四部合唱をする。	ふるさと	・ 曲に関心をもち、表現する学習に主体的に取り組もうとしている。	・ 声部の役割を理解し、表現を工夫しようとしている。	・ 発声に気を付けながら、自分のパートの音程やリズムを正確に把握し、歌うことができる。	
2	1 世界のア・カペラ音楽を鑑賞し、表現の多様性を理解する。 2 自分たちの合唱に生かせることを話し合う。 3 「ふるさと」の表現をグループで工夫する。	世界のア・カペラ音楽	・ ア・カペラに関心をもち、主体的に理解しようとしている。 ・ 声の重なりや響きに関心をもち、意欲的に合唱表現に取り組んでいる。	・ 声部の役割を理解し、全体のバランスに気を付けた表現を工夫しようとしている。	・ 曲にふさわしい音楽表現をするために、必要な発声、呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。	・ ア・カペラの表現の豊かさを聴き取っている。 ・ 曲による発声や声の重なり方の違いを理解し、響きの美しさやよさを聴き取っている。
3	1 「上を向いて歩こう」について知る。 2 各パートの階名唱をする。	上を向いて歩こう	・ 曲に関心をもち、表現する学習に主体的に取り組もうとしている。	・ 声部の役割を理解し、表現を工夫しようとしている。	・ 各パートの音程やリズムを正確に把握し、歌うことができる。	
4	1 どのような音楽を創りたいかグループでプランを立てる。 2 グループで表現を工夫する。		・ グループ活動に主体的に取り組んでいる。	・ 声の重なりや響き合いを感じ取って表現しようとしている。 ・ 曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫しようとしている。	・ 他のパートを聴きながら、歌い合わせることができる。	
5 (本時)	1 グループで表現の工夫を確認する。 2 創り上げた音楽を互いに発表し合う。 3 発表を聴き、批評をする。		・ 表現を工夫する活動や、他のグループの発表を聴いて批評する活動に意欲的に取り組んでいる。	・ ア・カペラの豊かな響きや歌い合わせの喜びを感じながら、伸びと表現を工夫することができる。	・ 他の声部を意識しながら、曲にふさわしい表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。	・ 他のグループの演奏を聴き、ア・カペラの美しさや表現の工夫を聴き取ることができる。
6	1 アドバイスカードを基に、よりよい表現の工夫をグループで話し合い、練習する。 2 発表する。 3 学習のまとめをする。		・ アドバイスカードの批評を、自分たちの演奏に生かそうとしている。	・ アドバイスカードを基に、よりよい表現の工夫ができる。	・ 他の声部を意識しながら、曲にふさわしい表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。	・ 他のグループの演奏を聴き、ア・カペラの美しさや表現の工夫を聴き取ることができる。

7 本時の実際（5／6）

(1) 指導目標

- ア 表現を工夫する活動や、他のグループの発表を聴いて批評する活動に、意欲的に取り組ませる。
- イ ア・カペラの豊かな響きを感じながら、曲にふさわしい表現を工夫させる。
- ウ 他の声部を意識しながら、曲にふさわしい表現をするために必要な技能を身に付けさせる。
- エ 互いの演奏から、ア・カペラの美しさや、表現の工夫を聴き取らせる。

(2) 評価規準

- ア 表現を工夫する活動や、他のグループの発表を聴いて批評する活動に、意欲的に取り組んでいる。
- イ ア・カペラの豊かな響きや歌い合わせる喜びを感じながら、伸び伸びと表現を工夫することができる。
- ウ 他の声部を意識しながら、曲にふさわしい表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。
- エ 他のグループの演奏を聴き、ア・カペラの美しさや、表現の工夫を聴き取ることができる。

(3) 展開

時間	主な学習活動	形態	指導上の留意点（◆は評価の観点）
5分	1 ウォーミングアップのための発声をし、「ふるさと」を歌う。	一斉	○ 明るい雰囲気を作りながら伸び伸びと歌唱させる。 ○ 混声四部合唱の豊かな響きを体感しやすい隊形を工夫する。 ◆ 評価 ア
2分	2 「ふるさと」の魅力が伝わる合唱ができたか振り返り、本時の目標を把握する。 「上を向いて歩こう」の魅力が伝わる発表をし、互いにアドバイスをしよう。	一斉	○ 本時の目標と授業の流れを理解させる。 ・ 本時は、これまでグループで創り上げた音楽を互いに発表し、批評することを理解させる。 ○ どのように音楽の魅力を伝えるか、観点を通して確認させる。
8分	3 グループごとに表現の工夫を確認し、練習する。	グループ	○ 発表する内容（説明・隊形・順番）をグループで確認させる。 ○ 事前に、各グループで表現の工夫をまとめさせておく。 ◆ 評価 ア・イ
32分	4 グループごとに発表し、互いの批評をする。 ・ 魅力を伝えるために工夫したことを説明して、演奏する。 ・ 演奏を聴き、観点に基づいた批評をアドバイスカードにまとめる。 ・ 書いた批評を発表する。	グループ 個人	○ 曲の魅力を伝えるために工夫したことを説明・掲示した後、演奏させる。 ◆ 評価 ア・イ・ウ ○ 演奏を聴き、評価の観点に基づいてアドバイスカードに批評をまとめさせる。 ・ 批評は、相手に伝わりやすいよう、より具体的に書くように助言する。 ・ どの観点でも聴き取ることができるようになるようにさせるため、グループごとに重点項目を決めて批評させる。 ◆ 評価 ア・エ
3分	5 演奏を振り返り、自己課題を見つける。 6 次時の予告を聞く。	個人	○ 演奏や批評の発表から、自分の今後の課題を考えさせる。 ◆ 評価 エ ○ 次時はアドバイスカードを交換し、アドバイスを生かして、よりよい表現を目指すことを伝える。